

国語科学習指導案(略案)

教材：

李白「送友人」詩

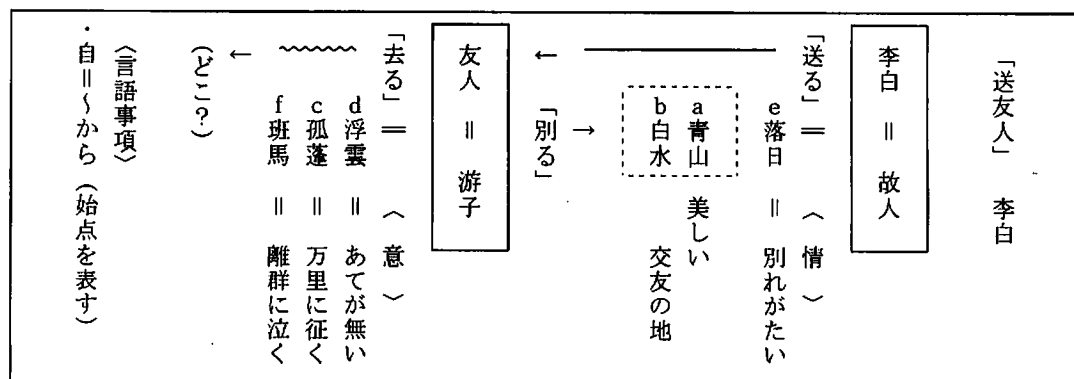
青山横北郭、白水邊東城。此地一爲別、孤蓬萬里征。

浮雲游子意、落日故人情。揮手自茲去、蕭蕭班馬鳴。

教材観：

「送友人」という詩題は後人がつけたもので、内容は留別の詩である、と注釈家安旗は言う。そのように理解する方が詩中に描かれている状況も自然であり、無理がない。元来、「游子」が李白であり、「故人」が友人であるところを、詩題を尊重し逆転させて解説するところに、この詩の教材としての面白さ（送られるものの立場で詠んでいるような適度の難解さ）がある。

板書案：



本時の指導目標：

- 1、自然の景物が離別に際しての両者の心情を象徴していることを理解させる。
- 2、別れの寂しさ、旅先の不安を詠出する裏に、この土地ではぐくんだ厚い友誼が通い合っていることを捉えさせる。

本時の指導過程：

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 本時の学習目標を明らかにする。	・ 詩題より、李白と友人の離別であることを板書で明示し、併せて①離別に際しての詩人の心境、②それを表出するための詩の表現手法について考えていくことを明示する。

2.音読し、範読を聞き、疑問点を明らかにする	・1名の指名音読および批正の後、範読し、同名者の再音読の後、斉読させる。
3.注を参照し、詩語の意味を明らかにする。	・「北郭」「孤蓬」「蕭蕭」「班馬」「自」について、語の意味を明らかにさせる。
4.友人がどこからどこへ去るのかを明らかにする。	・「此地」「(茲)」から「万里のかなた」までであることを捉えさせる。
5.「此地」がどのような所かを考える。	・「城・郭」に囲まれた所であることを捉えさせる（山水の意味は、しばらく措く）。
6.李白および友人の、離別に際しての心情を捉える。	・直接的な心情表現のないことに気づかせ、「浮雲」と「落日」が先ずその象徴表現になっていることを捉えさせた後、発表させ、板書する（「意」と「情」に注目させる）。
7.詩表現の特徴を理解する。	・情景描写が別離の心境を象徴していることを理解させた後、「孤蓬」「班馬」も同様の手法であることに気づかせる。
8.「青山・白水」の二句の情景描写の意味について考える。	・象徴表現か否かを判別させながら、友誼を厚くするにふさわしい美しい土地であったことを捉えさせる。および、そこを後にせざるを得ない友と、のこされる詩人自身の心境について、詩中に根拠を求めさせながら、思うところを発表させる。
9.詩全体を味読した後、音読し、本時のまとめをする。	・音読は1名指名音読の後、斉読させる。 ・詩表現の特徴（上手さ）についてまとめさせる。

備考：

「班馬」は、離群の馬。見送る側も旅立つ側もともに馬を控えさせているが、去る者の馬はやがて一頭だけで旅立たなければならない。その状況を捉える際、送別と留別の逆転に気づいた生徒があれば、そのむね最後のまとめ時点で知らせる。